

Compass 教科書 授業で生かすアイデア・方法



岩田純一

この教科書は、見開き左ページの本文に対して、右ページが「ワークシート」のイメージになっており、これに沿って授業を進めることで、Input → Intake → Output という流れにつながります。ただし、生徒を最もよく理解している先生方が自分なりの「味付け」ができるよう、掲載内容は授業形態を制約しすぎないように配慮されています。本稿では私の“Mostly English”の「味付け」を紹介したいと思います。

1. Input —— 本文の理解

①写真を用いたトピックの導入



Lesson 1 扉

写真などを用いたインタラクションにより、動機づけと背景知識の共有を図ります。選択式の質問に挙手で答えさせたり、ペアやグループで会話をさせたりと、生徒の様子に合わせて活動を工夫し

ます。本文に関連した写真が役立ちます。内容理解のカギとなる単語もここで導入しておきます。

②リスニングによる本文の導入

本書には身近で理解しやすい内容が多いので、リスニングから入ることで、チャレンジ感覚がやる気につながります。概要がわかれば答えられる(TF, または単語で答えられる)クイズを英語で与え、リスニング後にペア、全体で答えを確認し

ます。これはテストではなく内容理解のためのステップなので、解答・解説の際のインタラクションが次のリーディングにおける詳しい内容理解への布石となるよう工夫します。

③ Answer it! を柱に本文理解のための Q&A

1. What did Angela Aki do at fifteen?
2. Who kept the letter?
3. What did Angela Aki write fifteen years later?

Lesson 1 Answer it!

リーディングタスクとして用意されているのが、本文の流れに沿った3つの質問、Answer it! です。本文の一部をほぼそのまま抜き出して答えられるようになっているので、ペアワークにも無理なく使えます。得意な生徒にも「英語を話す」経験を積ませ、また「わかった」気持ちにさせ、授業にもテンポが生まれます。

私はこのコーナーを理解の確認のためというよりは、理解を助けるために使います。CDを聞き通読した後、この3つの質問を中心に、適宜質問を補ってやりとりをする中で、内容の理解を助け、それについて考えさせます。例えば Answer it! の最初の質問 “What did Angela Aki do at fifteen?” への “She wrote a letter to herself.” という答えに対して、理解を深めるために “What did she write about?” と質問を補い、さらに “Have you written a letter to yourself?” と問いかけて内容について考えさせます。 “Ask this question to your partner.” とペアワークも織り込み、 “What did your partner say?” と全体の活動に戻します。本文と写真や図表を関連付

ける質問も有効です。**Answer it!** が様々なインタラククションに、そして表面的でない理解につながるよう工夫します。

2. Intake —— 学習内容の定着

①音読

音読練習では正しい発音への意識付けのために設けられた **Sound** の項目だけは徹底します。音読方法は目的も考慮して単調にならないように変化をつけます。例えば内容を考えながら音読させたい場合には、1 人称の立場で書かれた本文を 3 人称に変えながら音読させる場合もあります。

②Focus on it!/Check it! : ターゲット文法の学習

I **am working** for the environment.
be 動詞 + -ing
「(今) ~しているところだ」
🗣️ We **were talking** in the classroom then.

Lesson 1 Focus on it!

日本語に合うように、与えられた語を使って英文を完成させましょう。

- マンディは今部屋を掃除しています。
Mandy () () her room now. <clean>
- 何人かの男の子たちが公園で遊んでいました。
Some boys () () in the park. <play>

Lesson 1 Check it!

教科書での文法学習の特長は、文法項目の自然な使用場面が本文に示されていることです。例えば著名人が自らの経験を語る Lesson 1 では、必然的に現在形・過去形・進行形が使用されています。**Focus on it!** は、本文からターゲットセンテンスを抜き出した体裁ですが、その文法項目と使用場面と結びつけ、例えばこの場合は、時の流れを示す線上に過去、現在、未来の出来事を並べるなど、板書も利用して理解と定着を図ります。

Check it! は、主に空所補充による英文完成です。生徒にとって身近な内容の文が使用されますので、一工夫して使用場面を生徒にイメージさせたいものです。例えば、生徒に Mandy (is) (cleaning) her room now. と答えさせる前に、そ

れが応答となる “Where’s Mandy? I’d like to talk to her.” というような文を、キューとして口頭で与えるというのはいかがでしょうか。

3. Output —— 学習内容を生かした発信

① Use it! : ターゲット文法を用いた自己表現

下線部の表現を変えて、将来のために今していることについて話しましょう。

A: What are you doing for your future?

B: I’m studying hard now.

Hint Box
practicing the piano reading a lot of books saving money

Lesson 1 Use it!

Use it! は、ターゲット文法を使用した「プチ」自己表現活動です。黙ってしまう生徒がいないように **Hint Box** が用意されていますが、余裕のある生徒にはさらに創造力を発揮させることも可能です。例えば設定された A → B にプラス 1 ターンを自由に加えさせ “What are you studying hard?” “I’m studying English hard because...” というように発展させることができます。また、ペアワークに続けて、数名に “What is your partner doing for his/her future?” と問いかけて全体での活動につなげることもできます。

文法学習を自己表現活動につなげることが生徒の文法観に与える影響は小さくないはずです。

②Summary Telling : 読んだ内容を相手に伝える

読んだ内容を、学んだ表現を用いて教科書を見ずに英語で伝えられるようになることが私の授業の目標の 1 つです。**Answer it!** での Q&A の際にキーワードを板書しておく、授業のまとめとして、それらを用いた Summary Telling を行えます。ペアで一方が立ち、キーワードだけを見て本文の内容を相手に伝えます。時間制限を設け、大きめのタイマーで残り時間を示すとゲーム感覚が加わり、生徒は意外と楽しそうに取り組みます。

常に有効な授業方法はありませんので多くの引き出しを用意しておくことが大切です。すこしでもご参考になることがありましたら幸いです。

(いわた じゅんいち・千葉県立長生高等学校教諭)